

特集

2060年の人口4万人台維持を目標に 「岡谷市まち・ひと・しごと創生 総合戦略」策定

人口急減・少子高齢化という課題を前に、国は、平成72（2060）年の展望人口を1億人とする「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と、それを実現するための具体的な施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定。本年度から、地方創生に向けた取組を本格的にスタートさせています。

岡谷市の人口は、昭和55（1980）年の62,210人をピークに減少に転じ、現在は、5万人をどうにか維持しているものの、4万人台となる日もそう遠くはない状況です。

こうしたなか、市は、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて施策を展開するための「岡谷市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」を策定。将来に夢や希望を描ける人口[2060年の将来展望人口4万人台維持]を掲げました。

また、この将来展望人口を実現するために、4つの基本戦略とそれぞれの戦略の方向性を明らかにした「岡谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

岡谷市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン

1

人口動向から見える 岡谷市の現状

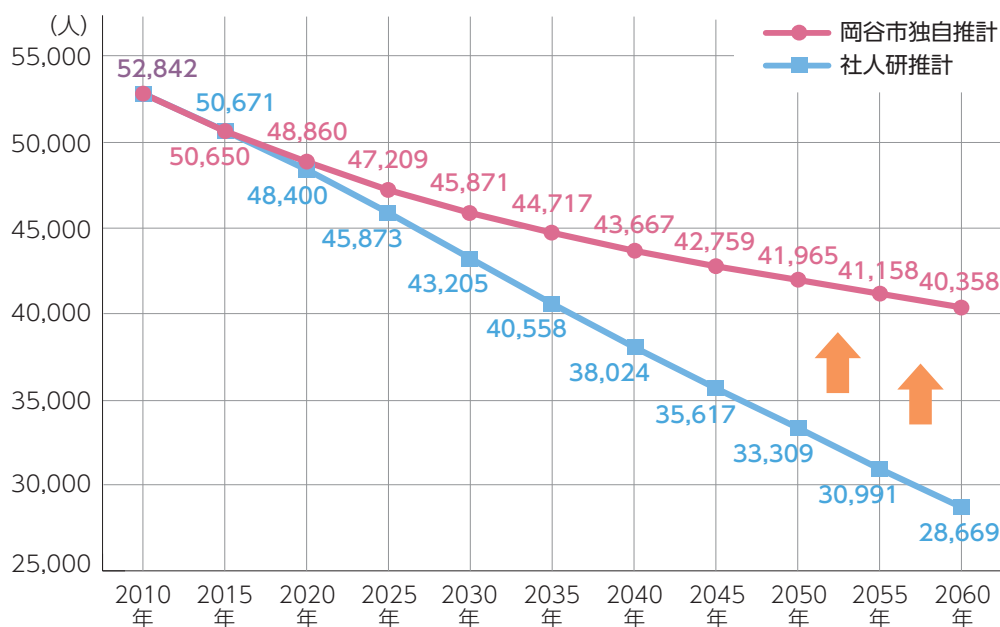
- 平成15（2003）年以降、自然減の状態が続いている
- 老年人口（65歳以上）割合が、年少人口（0歳～14歳）割合を超えていて、さらに出生数は減少傾向にある
- 昭和45（1970）年以降、社会減の状態が続いている
- 年齢階級別にみると、転出者は20歳代、30歳代が多い

2

アンケート調査から見える 岡谷市の現状

- ＜市民の意向調査では＞
 - 出産・育児に際しての心配は、経済負担が最も多い
 - 子育てと仕事が両立できる職場環境整備が求められている
 - 20歳代への結婚意識の啓発や異性と出会うきっかけづくりの支援が求められている
- ＜転入・転出者の意向調査では＞
 - 転出先として、買い物物の利便性や土地・住宅事情が良いことを求めている
- ＜高校生の意向調査では＞
 - Uターン希望者は、就職ニーズにあった企業や職種を求めている

■人口の将来展望



＜首都圏の移住意向調査では＞
● 岡谷市の認知度は約3割と高い水準ではないが、約2割が本市への移住に対して、肯定的な回答をしている

国立社会保障・人口問題研究所(社人研)推計人口…2060年に28,669人



【人口減少対策の方向性】

- ものづくり産業の振興による働く場の確保
- 安心して子どもを産み育てることができる環境の整備
- 岡谷市の魅力を市内外に発信



岡谷市推計人口…2060年に40,358人

2060年の将来展望人口 4万人台を維持

岡谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略

【策定の位置づけ】

国や長野県の人口ビジョン、総合戦略を勘案し、人口減少を克服する地方創生のための計画と位置づけます。

【戦略の期間】

平成27(2015)年度から平成31(2019)年度までの5か年の計画とします。

- ①総合戦略の見直し…計画期間中においても必要に応じて適宜見直しを行います。
- ②アクションプランの見直し…戦略展開のためのアクションプランは、1年ごと見直しを行います。

基本戦略

基本戦略Ⅰ たくましい産業創造戦略

～しごとをつくり、安定した雇用を創出する～

市外への人口流出を防ぎ、本市に人の流れを呼び込むため、基幹産業である製造業を中心にさまざまな既存産業の活性化に取り組むほか、企業誘致、新規創業や事業承継の促進により、しごとをつくり、安心して働くことができるよう雇用の創出を図ります。

〈戦略目標〉

粗付加価値額(製造業)：1,314億円⇒1,400億円
※粗付加価値額…生産活動によって新たに付け加えられた価値
 全産業従事者数：22,850人⇒23,000人

〈戦略の方向性〉

- (1)工業の振興 (2)商業の振興 (3)サービス業の振興
 (4)雇用対策の充実 (5)女性の活躍推進

基本戦略Ⅱ 岡谷ブランド発信戦略

～魅力を発信し、新しいひとの流れをつくる～

シルクの歴史や文化、豊かな自然などの地域資源を活かした魅力ある地域づくりを進めるとともに、岡谷ブランドとして積極的に情報発信し、本市の認知度を高め、交流人口を増加させることで、移住、さらには定住意欲の醸成につなげます。

〈戦略目標〉

観光客数：46万5,700人⇒49万人
 社会動態の増減：-334人⇒-70人

〈戦略の方向性〉

- (1)岡谷ブランドの推進 (2)新たなシルク文化の創造
 (3)観光の振興 (4)文化を核としたまちづくり
 (5)移住の促進 (6)公共交通網の整備

基本戦略Ⅲ 輝く子ども育成戦略

～結婚・妊娠・出産・子育て・教育の希望をかなえる～

結婚や妊娠・出産は個人の自由な選択によるものであることを基本としつつ、男女が希望する年齢で結婚し、安心して子どもを産み育てることができるよう、結婚・妊娠・出産・子育て・教育の希望をかなえる施策を展開し、未来を支える輝く子どもを育成します。

〈戦略目標〉

出生数：349人⇒385人
 子育てに対する市民満足度：3.0/5.0点⇒3.5/5.0点

〈戦略の方向性〉

- (1)結婚に対する支援 (2)母子保健の充実
 (3)子育て支援の充実 (4)学校教育の充実
 (5)青少年の健全育成

基本戦略Ⅳ 安全・安心の伸展戦略

～活力ある安全・安心なまちをつくる～

いつまでも住み慣れた地域で、健康で生きがいを持って暮らし続けることができるよう、少子高齢社会に適応したまちづくりに取り組みます。

〈戦略目標〉

健康寿命：延伸
 避難行動要支援登録者の個別計画の作成率：
 53.6%⇒100%

〈戦略の方向性〉

- (1)健康づくりの推進 (2)医療体制の充実
 (3)地域福祉の推進 (4)危機・防災・減災対策の推進
 (5)まちの活力を高める市街地整備
 (6)地域コミュニティの醸成

推進の方法

市民総参加による推進

総合戦略の推進については、市長をトップとする「岡谷市まち・ひと・しごと創生本部」が中心となり取り組めますが、施策や事業を進めるうえで、市民のみなさんの理解と協力は欠かせません。

そのため、市民、産業界、行政機関、教育機関、金融機関、労働団体、メディアなど幅広い分野のみなさんで構成する「岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議」の意見・提言を聴き、意向を的確に把握しつつ、機会あるごとに、多くのみなさんの積極的な参加と行動を促し、市民総参加を推進します。



広域連携による推進

人口減少に歯止めをかけ、地域の活性化を図るためには、市単独の取組に加え、県、諏訪地域6市町村をはじめ、同じ課題や資源を持つ県内外の市町村と連携・協力して、取り組むことも必要です。工業の振興や観光の振興はもちろん、さまざまな分野でお互いの強みや特性を踏まえて連携し、地方創生につなげます。



進行管理

PDCAサイクルによる進行管理

※PDCAサイクル…Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つを継続的なプロセスで回し、効率的な改善を推進するマネジメント手法です。



この総合戦略に基づき、各種施策をバランスよく展開し、将来にわたって、岡谷市がさらなる発展を続け、市民だれもが安全で安心して、健康で生きがいを持って暮らすことができるまち。このまちに住み、働くことに誇りと自信、愛着を持てるまち。そんな「みんなが元気に輝く たくましいまち岡谷」を実現することで、人口減少や急速に進む少子高齢化に的確に対応し、岡谷市の創生をめざします。